

1 評価基準

| | |
|-----|---|
| 4 : | 十分達成されている (よく当てはまる) |
| | <ul style="list-style-type: none"> 目標に対して具体的方策が順調に進行しており、当初の成果が得られていると判断される状態 具体的方策を実施中であり、漸次その成果を検証しつつある状態 |
| 3 : | おおむね達成されている (どちらかといえば当てはまる) |
| | <ul style="list-style-type: none"> 改善に向けて共通理解をもち、具体的方策の実行に着手しつつある状態 改善の必要性に対して理解があり、具体的方策に対して取り組もうとしている状態 |
| 2 : | どちらかという達成されていない (あまり当てはまらない) |
| | <ul style="list-style-type: none"> 改善の方向性はもっているが、共通理解が十分ではなく全体として停滞している状態 改善の方向性を探っている状態 |
| 1 : | ほとんど達成されていない (まったく当てはまらない) |
| | <ul style="list-style-type: none"> 問題意識をもってはいるが、手つかずの状態 現状に満足し、問題意識にまで考えが及んでいない状態 |
| ／ : | わからない |

2 評価結果

| | | 1 教育活動 | | 2 教育環境 | | | 3 開かれた学校 | | 総 計 | | | | |
|-----|-----|--------|----|--------|-----|----|----------|-----|-----|-----|-----|---|-----|
| | | R6 | R5 | R6 | | R5 | R6 | R5 | R6 | R5 | | | |
| 全学部 | 教職員 | 3.5 | — | 3.5 | 3.1 | △ | 3.3 | 3.5 | ↑ | 3.4 | 3.4 | — | 3.4 |
| | 保護者 | 3.5 | △ | 3.6 | 3.3 | △ | 3.4 | 3.4 | ↑ | 3.3 | 3.4 | — | 3.4 |
| 小学部 | 教職員 | 3.3 | △ | 3.4 | 3.0 | △ | 3.3 | 3.3 | △ | 3.4 | 3.2 | △ | 3.4 |
| | 保護者 | 3.6 | ↑ | 3.5 | 3.4 | ↑ | 3.3 | 3.4 | ↑ | 3.2 | 3.5 | ↑ | 3.3 |
| 中学部 | 教職員 | 3.5 | ↑ | 3.3 | 3.2 | — | 3.2 | 3.5 | ↑ | 3.3 | 3.4 | ↑ | 3.3 |
| | 保護者 | 3.4 | △ | 3.7 | 3.1 | △ | 3.5 | 3.3 | △ | 3.6 | 3.3 | △ | 3.6 |
| 高等部 | 教職員 | 3.5 | — | 3.5 | 3.0 | △ | 3.3 | 3.4 | — | 3.4 | 3.3 | △ | 3.4 |
| | 保護者 | 3.5 | — | 3.5 | 3.4 | — | 3.4 | 3.4 | ↑ | 3.2 | 3.4 | — | 3.4 |

↑ : 向上 △ : 下降 — : 同値

3 教育活動について

○4段階の平均値は、保護者、教職員とも3.5ポイントであった。保護者は3.5ポイントで昨年度より0.1ポイント下がり、教職員は昨年度と同値であるが、いずれも4ポイント中3.5ポイントと高い評価を得ている。

○保護者の評価について

- ・昨年度の数値と比較すると昨年度より高い数値はないが、全19項目中12項目が3.5ポイント以上の高い評価を得ている。特に、「5:学校は、「個別の教育支援計画」について保護者と話し合いながら適切に取り組んでいる。」については、昨年度と同値の3.6ポイントと高い評価を得ている。
- ・今年度一番低い評価は昨年度より0.1ポイント下がった3.3ポイントの「18:学校は、児童生徒の将来の夢や願いの実現に向けた情報を提供している。」であった。この項目について学部別に見てみ

ると小学部は 3.5、高等部は 3.4 ポイントの高評価であるものの、中学部で 3.1 ポイントと低く、6 名の保護者が「2」や「1」の評価であった。自由記述欄に記載されたものには、「就労事業所の見学会復活。」「ホームページをもっと充実させると開かれた学校感が伝わる。進路先を迷っている保護者の参考になる」という記述がある。一方、中学部教職員の評価は、3.4 ポイントで回答者の全員が「4」「3」の評価であり、努力していることが分かる。このことから、教職員は努力しているが、保護者には伝わっていないと読み取れる。特に中学部においてはこれまで以上に就労先の情報を提供をしていくとともに、中学部生の月 1 回の高等部作業学習体験や高等部実習報告会参加、中学部職場体験の他、キャリア教育全体計画と関連する教育活動などを通信等で取り上げるといったキャリア教育に関する学びについても発信する必要があると考える。

- ・昨年度より 0.2 ポイント下がった項目は、「14: 学校は、いじめが起きにくい・いじめを許さない環境づくりに取り組んでいる。」である。中学部と高等部の保護者で「2」「1」に回答した方が複数名いるものの、自由記述欄には本項目に関する記載がないため詳細な理由は不明である。しかし、評価は、3.4 ポイントと高い。また、校内で児童生徒を対象に行ったいじめアンケートでも児童生徒同士の気持ちのすれ違いはあるものの、いじめについては上がっていない。教職員の評価も昨年度同様 3.6 ポイントと高く、教職員のいじめに対する意識も高いことがうかがえる。今後も継続して、いじめが起きにくい・いじめを許さない環境づくりに取り組んでいきたい。

○教職員の評価について

- ・昨年度の数値と比較してほとんどの項目で上回り、全項目が 3.3 以上の数値であった。
- ・特に、「19: 現場実習や進路開拓（一般就労・福祉就労等）を十分に行っている。（高のみ記入）」は 3.7 ポイントで、保護者の評価も 3.4 ポイントあることから取組の成果が表れていると考える。
- ・次いで高評価の 3.6 ポイントの項目として「13:児童生徒の命を尊び、人権を尊重した取組を行っている。」「14:いじめが起きにくい・いじめを許さない環境づくりに取り組んでいる。」がある。保護者の評価も項目 13 が 3.5 ポイント、項目 14 が 3.4 ポイントと高評価であるため、今後も、人権を尊重し、いじめを許さない環境づくりに取り組んでいきたい。
- ・一方、一番低い 3.3 の評価は、保護者の評価で述べた「18:学校は、児童生徒の将来の夢や願いや実現に向けた情報を提供している。」の他に、「2:教育活動と目標は適切で、保護者に理解を得て実践している。」「3:保護者の希望や願いの声が届きやすく、学校運営に反映されている。」の項目がある。保護者の評価は、項目 2 が 3.5 ポイント、項目 3 が 3.4 ポイントであることから、教職員の自己評価の低さがうかがえる。今後も、保護者に対する教育活動や目標等の分かりやすい説明や一人一人が学校運営参画への意識をもち教育活動を行いたい。

4 教育環境について

- 4 段階の平均値は、保護者は 3.3 ポイント、教職員は 3.1 ポイントで、昨年度より保護者が 0.1 ポイント、教職員が 0.2 ポイント下がっている。

○保護者の評価について

- ・全 3 項目中昨年度と比較して 2 つの項目で 0.1~0.2 ポイント下がった。特に、「20: 学校は、安心・安全な施設・設備が整っている。」の項目は、昨年度より 0.2 ポイント下がり 3.1 ポイントである。本項目について学部別に見てみると、中学部と高等部のポイントが昨年度より下がっており、中学部が昨年度の 3.5 ポイントから 0.5 下がり 3.0 ポイント、高等部が昨年度の 3.6 ポイントから 0.4 ポイント下がり 3.2 ポイントと低く、中学部で 7 名、高等部で 4 名の保護者が「2」「1」と回答している。自由記述欄には本項目に関する記載がないため詳細な理由は不明である。今後も事務室と連

携を図り予算のついたところから営繕、整備に取り組みたい。

○教職員の評価について

- ・全3項目中2つの項目で0.2ポイント下がった。
- ・「20：安心安全な施設の整備に心がけている。」は、3.3ポイントで昨年度より0.2ポイント下がっている。自由記述欄には、校舎内で一部老朽化に伴う廊下の照度不足や清掃では改善できない劣化についてあげられており、教職員の意識が高いことに伴う気づきが評価としてあがったと考えられる。今後も事務室と連携を図り予算のついたところから営繕、整備に取り組みたい。
- ・「21：児童生徒の学習に必要な教育環境が整えてあり、活用されている。」は、昨年度より0.2ポイント下がり、3.0であった。自由記述欄に教材、教具の充実があげられていることから、今後も計画的に環境整備等を推進していくことが必要であるとする。

5 開かれた学校について

○4段階の平均値が、保護者は3.4ポイント、教職員は3.5ポイントで、昨年度より保護者、教職員ともに0.1ポイントずつ上がっている。

○保護者の評価について

- ・全3つの項目は3.2以上で、昨年度と比較して2つの項目で0.1ポイント上がった。
- ・特に、「学校の情報をホームページや各種便りなどで伝えている。」は、3.5ポイントと高評価で、昨年度より0.1ポイント上がっている。本項目について学部別に見ると、小学部3.6、中学部3.4、高等部3.5ポイントといずれの学部においても3.4以上の高評価であった。学校長通信や学部通信の他、教育活動の様子、PTA活動の様子などを積極的にホームページにアップする他、学校の取組を新聞記事に3回、長崎県教育委員会公式YouTubeに2回取り上げられたりした成果だと考える。今後も発信を継続し開かれた学校づくりを推進したい。

○教職員の評価について

- ・全3つの項目は3.3以上で、昨年度と比較して2つの項目で0.1ポイント上がった。
- ・特に、保護者と同様に「学校の情報をホームページや各種便りなどで伝えている。」は、3.6ポイントで、昨年度より0.1ポイント上がる高評価であった。本項目について学部別に見ると、小学部3.5、中学部3.6、高等部3.6ポイントといずれの学部においても3.5以上の高評価であった。全ての学部において本校の取組を発信できる教育活動に取り組み、その様子や成果を積極的に発信し、開かれた学校づくりに取り組んでいる成果であるとする。

6 総括

評価の総計は、保護者、教職員ともに3.4ポイントで昨年度とほぼ同値の結果であり、どちらも高評価であることから、教育活動等について一定の理解が得られ、学校目標をおおむね達成できたと考ええる。一方で、項目によっては「／：わからない」を選択した方が一定数いることから、日頃の教育活動や行事等について一層の理解と協力を得るためにも、保護者をはじめ外部への広報活動に継続して取り組むことが必要であるとする。また、項目によっては保護者と教職員間や学部間に差がある評価があった。今後も保護者の評価を真摯に受け止め、強みを生かしつつも弱みの改善に積極的に取り組み、保護者や地域等にさらに信頼されるよう、教育課程の編成や専門性の向上に努めたい。

令和6年度 長崎県立鶴南特別支援学校 学校評価 保護者アンケート結果

回収率80%

| 番号 | 評価内容 | 今年度 | 昨年度 | 回収率80% | | |
|-----------------|--|------------|-----|--------|-----|-----|
| | | | | 小学部 | 中学部 | 高等部 |
| 1 教育活動 | | 3.5 | | | | |
| 1 | 教育目標には児童生徒の実態に合った教育ニーズや願いが盛り込んである。 | 3.5 | 3.6 | 3.6 | 3.4 | 3.5 |
| 2 | 教育活動と目標は適切で、保護者に理解を得て実践している。 | 3.5 | 3.6 | 3.6 | 3.4 | 3.6 |
| 3 | 保護者の希望や願いの声が届きやすく、学校運営に反映されている。 | 3.4 | 3.5 | 3.4 | 3.3 | 3.5 |
| 4 | 特色ある部・学年経営が行われ、児童生徒の成長のための取組を行っている。 | 3.5 | 3.6 | 3.7 | 3.4 | 3.5 |
| 5 | 学校は、「個別の教育支援計画」について保護者と話し合いながら適切に取り組んでいる。 | 3.6 | 3.6 | 3.6 | 3.5 | 3.7 |
| 6 | 学校は、児童生徒が主体的に活動しようとする指導内容や学校行事を行っている。 | 3.5 | 3.6 | 3.7 | 3.3 | 3.5 |
| 7 | 学校行事や授業などで、一人一人の生き生きとした活動の様子がみられる。 | 3.5 | 3.6 | 3.6 | 3.3 | 3.6 |
| 8 | 児童生徒への指導が一人一人に工夫され、授業を分かりやすくしている。 | 3.4 | 3.5 | 3.5 | 3.2 | 3.5 |
| 9 | 教職員は、自分の個性を発揮し、明るく活気のある学校作りを行っている。 | 3.5 | 3.6 | 3.6 | 3.3 | 3.6 |
| 10 | 教職員は、専門性をもって指導に取り組んでいる。 | 3.4 | 3.5 | 3.5 | 3.3 | 3.4 |
| 11 | 学校は、基本的な生活習慣や挨拶、礼儀などが、身に付く指導をしている。 | 3.5 | 3.6 | 3.6 | 3.4 | 3.5 |
| 12 | 学校は、児童生徒の立場に立った声かけをしたり、相談を受けたりしている。 | 3.5 | 3.5 | 3.5 | 3.5 | 3.5 |
| 13 | 学校は、児童生徒の命を尊び、人権を尊重した取組を行っている。 | 3.5 | 3.6 | 3.6 | 3.5 | 3.5 |
| 14 | 学校は、いじめが起きにくい・いじめを許さない環境づくりに取り組んでいる。 | 3.4 | 3.6 | 3.5 | 3.3 | 3.5 |
| 15 | 学校は、児童生徒の事故防止に努め、適切な指導をしている。 | 3.5 | 3.6 | 3.5 | 3.4 | 3.5 |
| 16 | 学校と家庭が必要な情報を共有し連携した体制になっている。 | 3.5 | 3.6 | 3.5 | 3.4 | 3.6 |
| 17 | 学校は、児童生徒の成長に合わせ将来を見通した進路指導をしている。 | 3.4 | 3.5 | 3.5 | 3.3 | 3.5 |
| 18 | 学校は、児童生徒の将来の夢や願いの実現に向けた情報を提供している。 | 3.3 | 3.4 | 3.5 | 3.1 | 3.4 |
| 19 | 学校は、現場実習や進路開拓(一般就労・福祉就労等)を十分に行っている。(高のみ記入) | 3.4 | 3.4 | | | 3.4 |
| 2 教育環境 | | 3.3 | | | | |
| 20 | 学校は、安心・安全な施設・設備が整っている。 | 3.2 | 3.4 | 3.3 | 3.0 | 3.2 |
| 21 | 児童生徒の学習に必要な教育環境が整えてあり、活用されている。 | 3.4 | 3.4 | 3.4 | 3.2 | 3.5 |
| 22 | 学校は、校舎内外の施設が整備され、清潔な学校づくりに努めている。 | 3.3 | 3.4 | 3.4 | 3.2 | 3.4 |
| 3 開かれた学校 | | 3.4 | | | | |
| 23 | 学校公開など、地域の人が来校しやすい機会や学校行事を設けている。 | 3.4 | 3.3 | 3.4 | 3.3 | 3.4 |
| 24 | PTA活動に参加しやすいよう配慮している。 | 3.2 | 3.2 | 3.3 | 3.2 | 3.2 |
| 25 | 学校の情報をホームページや各種便りなどで伝えている。 | 3.5 | 3.4 | 3.6 | 3.4 | 3.5 |

令和6年度 長崎県立鶴南特別支援学校 学校評価 教職員アンケート結果

回収率 100 %

| 番号 | 評価内容 | 今年度 | 昨年度 | 小学部 | 中学部 | 高等部 | 事務室 |
|-----------------|--|------------|-----|-----|-----|-----|-----|
| | | | | | | | |
| 1 教育活動 | | 3.5 | | | | | |
| 1 | 教育目標には児童生徒の実態に合った教育ニーズや願いが盛り込んである。 | 3.5 | 3.6 | 3.4 | 3.6 | 3.5 | 3.6 |
| 2 | 教育活動と目標は適切で、保護者に理解を得て実践している。 | 3.3 | 3.5 | 3.1 | 3.3 | 3.5 | 3.8 |
| 3 | 保護者の希望や願いの声が届きやすく、学校運営に反映されている。 | 3.3 | 3.4 | 3.1 | 3.3 | 3.3 | 3.5 |
| 4 | 特色ある部・学年経営が行われ、児童生徒の成長のための取組を行っている。 | 3.5 | 3.5 | 3.5 | 3.6 | 3.5 | 3.6 |
| 5 | 「個別の教育支援計画」について保護者と話し合いながら適切に取り組んでいる。 | 3.5 | 3.5 | 3.4 | 3.5 | 3.6 | 3.7 |
| 6 | 児童生徒が主体的に活動しようとする指導内容や学校行事を行っている。 | 3.5 | 3.5 | 3.4 | 3.5 | 3.5 | 3.8 |
| 7 | 学校行事や授業などで、一人一人の生き生きとした活動の様子がみられる。 | 3.5 | 3.6 | 3.4 | 3.5 | 3.5 | 3.6 |
| 8 | 児童生徒への指導が一人一人に工夫され、授業を分かりやすくしている。 | 3.4 | 3.4 | 3.2 | 3.5 | 3.3 | 3.6 |
| 9 | 自分の個性を發揮し、明るく活気のある学校作りを行っている。 | 3.4 | 3.5 | 3.1 | 3.5 | 3.4 | 3.8 |
| 10 | 専門性をもって指導に取り組んでいる。 | 3.4 | 3.3 | 3.3 | 3.4 | 3.3 | 3.8 |
| 11 | 基本的な生活習慣や挨拶、礼儀などが、身に付く指導をしている。 | 3.4 | 3.4 | 3.4 | 3.4 | 3.4 | 3.8 |
| 12 | 児童生徒の立場に立った声かけをしたり、相談を受けたりしている。 | 3.4 | 3.4 | 3.1 | 3.6 | 3.5 | 3.8 |
| 13 | 児童生徒の命を尊び、人権を尊重した取組を行っている。 | 3.6 | 3.5 | 3.6 | 3.6 | 3.5 | 3.8 |
| 14 | いじめが起きにくい・いじめを許さない環境づくりに取り組んでいる。 | 3.6 | 3.6 | 3.5 | 3.5 | 3.7 | 3.8 |
| 15 | 児童生徒の事故防止のための研修や指導をしている。 | 3.5 | 3.5 | 3.4 | 3.6 | 3.4 | 4.0 |
| 16 | 学校と家庭が必要な情報を共有し連携した体制になっている。 | 3.4 | 3.4 | 3.1 | 3.4 | 3.5 | 3.6 |
| 17 | 児童生徒の成長に合わせ将来を見通した進路指導をしている。 | 3.4 | 3.3 | 3.1 | 3.5 | 3.6 | 3.8 |
| 18 | 児童生徒の将来の夢や願いの実現に向けた情報を提供している。 | 3.3 | 3.3 | 3.1 | 3.4 | 3.5 | 3.8 |
| 19 | 現場実習や進路開拓(一般就労・福祉就労等)を十分に行っている。(高のみ記入) | 3.7 | 3.6 | | | 3.7 | |
| 2 教育環境 | | 3.1 | | | | | |
| 20 | 安心・安全な施設の整備に心がけている。 | 3.3 | 3.5 | 3.2 | 3.4 | 3.2 | 3.6 |
| 21 | 児童生徒の学習に必要な教育環境が整えてあり、活用されている。 | 3.0 | 3.2 | 2.9 | 3.1 | 3 | 3.6 |
| 22 | 校舎内外の施設が整備され、清潔な学校作りに努めている。 | 3.1 | 3.1 | 3 | 3.2 | 2.9 | 3.6 |
| 3 開かれた学校 | | 3.5 | | | | | |
| 23 | 学校公開など、地域の人が来校しやすい機会や学校行事を設けている。 | 3.5 | 3.4 | 3.3 | 3.5 | 3.5 | 4.0 |
| 24 | PTA活動に参加しやすいよう配慮している。 | 3.3 | 3.3 | 3.2 | 3.5 | 3.2 | 4.0 |
| 25 | 学校の情報をホームページや各種便りなどで伝えている。 | 3.6 | 3.5 | 3.5 | 3.6 | 3.6 | 4.0 |

学校評価（ 小学 部自己評価）

【総合評価】 4：十分達成している 3：おおむね達成している 2：どちらかという達成されていない 1：ほとんど達成されていない

| 重点目標 | 方策 | 総合評価 | 成果(○)と課題(●) |
|---|---|------|---|
| ①生活のリズムや生活習慣の形成を図るとともに、身の回りのことを自分でしようとする態度を育てる。 | ・日常生活の指導や集会等において、視覚的効果のある教材などを用いた指導を充実させる。 ・児童の意欲を向上させるような声掛けについて、適宜、部会等で話題に取り上げる。 | 3 | ○小学部職員は、児童ができるだけ自分でできるように視覚的な教材を用いて、着替えや排せつなどの基本的な生活習慣を身に付けるための指導を行っていた。 ○部主事は、児童の意欲を向上させるような声掛けを行うように、職員朝会や部会等で適宜意識を高めるような声掛けを行った。 ●小学部児童は男児の割合が多いが、職員の男性の割合が少ないため、着替えや排せつの指導については、学年を超えた指導体制も必要である。 |
| ②周囲の人と関わりながら、自分の気持ちを表現したり、伝達したりする力を育てる。 | ・児童の「伝える気持ち」を大切にしながら、国語や自立活動の指導の充実を図る。 ・児童会活動や係活動などを通して、発表する機会を設定する。 | 4 | ○小学部職員は、児童の気持ちに寄り添う指導を心掛けていた。また、タブレットPCや絵カードなどを活用し、気持ちを伝える指導を根気よく行っていた。 ○高学年では、児童会活動を充実させ、児童が活躍する場面を設定し、人前に立つ機会や人のために役に立つ機会を作り、自分の気持ちを表現したり、伝えたりする児童が増えていた。低学年や中学年でもほとんどの児童が係活動を行い、人と関わる力を高めることができた。 |
| ⑥言葉や数などの基本的知識や技能を育て、それらを生活に役立てる力を育てる。 | ・校内研究で取り組んでいる「認知(知る)の過程」の研修で得た情報を活用しながら、教科等の指導に取り組む。 ・各教科等で身に付けた資質・能力を生活に活かせるように、実体験の活動を取り入れる。 | 3 | ○学部研究会や小学部での研究授業の事例をもとに、「認知の(知る)過程」の児童の特性を考慮し、教科の見方・考え方を意識しながら授業を組み立てていくことで、発問の仕方や教材の工夫など授業改善できることを職員で共通理解することができた。 ○感染症等が落ち着いてきたことにより、各教科等で身に付けた資質・能力を活かしながら、体験的な活動が多くできた。各教科等の横断的な学びができるような指導も意識できるようになると児童の深い学びにつながる。 |

学校評価（ 中学 部自己評価）

【総合評価】 4：十分達成している 3：おおむね達成している 2：どちらかという達成されていない 1：ほとんど達成されていない

| 重点目標 | 方策 | 総合評価 | 成果(○)と課題(●) |
|--|--|------|---|
| ・様々な活動を経験する中で自分自身の課題を知り、進んで課題を解決し、行動する態度を育てる。 | ・各教科における実験、探求、発表などの体験的活動を増やす。 ・高等部の学習への参加や体験活動を充実させて、生徒が自らの課題を知り、克服しようとする意欲を引き出す。 | 3 | ○ICT機器を活用した調べ学習、実験をとおした検証授業など、体験的に学ぶ機会を増やすことができた。 ○高等部作業体験や実習報告会参加などをとおして、自分がやりたいことや今の自分に足りないことなどを考えることができた。 |
| ・手伝いや役割を果たすことの大切さを知り、生活に必要な知識・技能・態度を育てる。 | ・係活動や委員会活動での役割分担による協働活動の充実を図る。 ・各活動や給食の準備・後片付け等で、生徒ができる活動を数多く実践させる。 | 4 | ○委員会活動をとおして、学年の域を越え、異学年生徒が協力して各会の役割を果たす活動の充実が見られた。 ○給食の準備・片付けにおいては、個の実態に応じた役割を生徒自身が自覚して主体的に取り組む様子が見られた。 |
| ・得意なことを見付け、苦手なことや努力すれば達成できることに挑戦しようとするたくましい心や態度を育てる。 | ・自立活動において生徒の得意不得意を混合させた活動の工夫を行い、自己理解を深めさせる。 ・生徒の学習の成果を数値化、視覚化して、より学習への意欲を引き出す。 | 3 | ○自立活動は、学級内で個に応じた学習を考え、指導体制を工夫しながら実践することができた。 ●期末テストで成果を示しているが、日常的に行う係活動や運動場面での数値化、視覚化がもっとあっても良かった。 |

学校評価（高等部自己評価）

【総合評価】 4：十分達成している 3：おおむね達成している 2：どちらかという達成されていない 1：ほとんど達成されていない

| 重点目標 | 方策 | 総合評価 | 成果(○)と課題(●) |
|---|--|------|--|
| <p>・基本的生活習慣を確立しつつ、一方で一人一人の将来の生活を想定した、それぞれの課題に対する自分なりの解決方法を身に付けさせる。よりよい家庭生活を送るために必要な知識や技能の習得を図り、実際の生活に生かそうとする態度を育てる。</p> | <p>・生徒の実態に応じて少し頑張ればクリアできそうな課題を設定する。 ・体験と机上学習を組み合わせながら、知識と技能の習得を図る。</p> | 3 | <p>○ラン&ウォーク大会では、毎回の練習に目標を設定しながら挑戦し、日々の努力が大事なことに気付き、自己記録更新や昨年度よりも長い距離に挑戦した生徒もいた。 ●休みがちな生徒が、登校できてきている一方で休みが続いたり、保健室にこもりがちだったりする生徒もおり、話を聞く時間がより必要である。生徒が前に進めるように継続して支援していきたい。</p> |
| <p>・様々な課題を解決する経験を通して、達成感や成就感を味わい、自己肯定感を育むとともに、自己理解を深め、それぞれの個性に応じた自己実現を目指す態度を育てる。</p> | <p>・現場実習や体育祭、鶴南まつりなどで、役割をもたせたり、他と協力したりさせることで、自分の特性などに気付かせる。 ・自己評価と他者評価を比較させながら、自分の良さや課題に気付かせる。</p> | 4 | <p>○2年生は、鶴南まつりで舞台発表の中心的役割を担い、日々練習に取り組んだ。皆で協力し、役割をこなしながら、心に残る劇を作り遂げた。 ○生徒会選挙では、公約を基に遊説や演説を行い、立候補した生徒全員が当選した。自分の思いを分かるように相手に伝えること、言葉や態度や姿勢から相手を理解しようとする力を高めることができた選挙であった。</p> |
| <p>・作業学習や現場実習・進路の学習などを通して、職業生活に必要な働く力と態度を養うとともに、自分の進路について自分で選択し、決定する力を育てる。</p> | <p>・体験と机上学習を組み合わせながら、自分の力や特性に気付かせる。 ・経験を多く積ませることで、選択の幅を広げ、選択する材料を蓄積させる。</p> | 4 | <p>○1年生は、校内実習を通して、自分の特性や課題に気付き、現場実習に向けて声の大きさや身だしなみ、時間を守ることなど目標を定めた。 ○3年生は、進路を決める現場実習に挑み、それぞれが希望する進路先に決定した。</p> |

学校評価（教務部自己評価）

【総合評価】 4：十分達成している 3：おおむね達成している 2：どちらかという達成されていない 1：ほとんど達成されていない

| 重点目標 | 方策 | 総合評価 | 成果(○)と課題(●) |
|---|---|----------|---|
| <p>①学習指導要領に基づき、児童生徒の実態に即した系統性・一貫性のある教育課程の編成に向けて、学習計画表や評価規準表を活用し、指導内容の整理、評価規準に則した授業づくりを中心にカリキュラム・マネジメントの推進を図る。</p> | <p>(生活単元学習の検討) ・学習計画表、評価規準表等を活用して学習指導要領に則した題材の整理に取り組む。 ・学部間で取組の方法や進捗状況の共有を適宜図る。</p> | <p>3</p> | <p>○共有した各部の進捗状況を踏まえて、学習計画表の書式を、指導と評価の一体化の視点から、単元で扱う各教科の内容を確認しながら学習計画ができ、個別の指導計画等へリンクさせやすいものへ変更した。 ●教科の主な指導内容や具体的項目と評価規準を踏まえる作業は進んだが、題材の捉えの共有が十分でなかったことが伺えた。</p> |
| <p>②学校間交流、学校行事等に関する教育活動を通して、HP等を活用した教育活動の情報発信に努める。</p> | <p>・前年度と今年度のHP掲載内容や担当分掌等を一覧に整理する。 ・定期的にHPの掲載状況を確認したりして、必要に応じて分掌部等へ働き掛ける。</p> | <p>3</p> | <p>○HP掲載については、各部、各分掌の協力もあり、昨年度以上の掲載があった。 ○前期の反省であげた、啓発活動の様子が発信について、交流学习の事前学習として相手校に出向いて実施している啓発授業や実際の交流学习の様子やキャリア教育に関する内容を中学部、高等部中心に発信して頂いた。 ●前期の反省で議題にあがった「来校していただけるような方法や内容」については、SNSの活用などの案はあったが、具体的に進めることができなかった。今後も、他分掌、管理職と連携を図りながらよい方法を模索していきたい。</p> |

学校評価（ 研究部自己評価）

【総合評価】 4：十分達成している 3：おおむね達成している 2：どちらかという達成されていない 1：ほとんど達成されていない

| 重点目標 | 方策 | 総合評価 | 成果(○)と課題(●) |
|---|--|------|--|
| ○校内横断的な連携による校内研究を推進し、「個別の教育支援計画」と「個別の指導計画」の関連をもって効果的な作成の在り方を探る。 | 【校内研究】※主として部研 ・知的障害による学習上又は生活上の困難を情報処理の過程でどのような課題があるのかを含めて整理して、主体的に改善・克服できるような自立活動の指導に生かす。 | 4 | ○6月から8月は生活上の困難に関する研究を進め、事例研究を通して中心課題の背景にあるものを情報処理の過程から考えるなど、認知面を意識した取り組みができた。 ○10月から2月は学習上の困難を研究に関する研究を進め、「学習上の困難」と「学習上の困難の改善・克服に向けて必要な力」を、情報処理の過程において課題となっている要素との関連において事例研究を通して整理した。 ○「学習上の困難」と「改善・克服に向けて必要な力」を事例一覧を用いて共通理解して理解を深めることができた。この一覧を次年度の自立活動実態把握チェックリストの改正に生かしていく。 ●研究の進度が速くて理解が難しいという意見もあった。年度の後半からは、共通理解をする会を適宜設けるなどして対応した。 |
| ○知的障害のある児童生徒の「情報処理の過程」を研修し、実態把握の充実や授業改善につなげる。 | 【校内研究】※主として拡大研究会 ・ファシリテーター校内研修会（部主事、教務・研究・自立・教育支援部主任を対象）を実施し、自立活動の目標設定手続きに係る検討会での認知特性の視点を共有する。 ・自立活動部、教育支援部、教務部と連携を図り、認知面の実態把握をする内容を個別の教育支援計画に追加するための協議をしたり、自立活動運用マニュアルを作成したりする。 | 4 | ○5月にファシリテーター校内研修会を実施し認知の定義をしたり、参考資料をもとに認知の実態把握をする視点を共通理解したりできた。 ○ファシリテーター研修会を実施したことで、学部研究を進めていく際に統一した視点で話し合いを進行することができた。 ○拡大研究会で、認知面の実態把握をする欄を個別の教育支援計画に追加ための協議を行い、効果的効率的な方法について意見交換ができた。令和8年度の運用開始を予定している。 ○1月には自立活動運用マニュアルのための協議を行い、全教師を対象に実施したアンケート結果も活用してマニュアルを作成できた。来年度からこのマニュアルを運用し、拡大研究会でも協議を行い微調整していく。 |
| | 【現職教育等】 ・同和教育・各種研究会・研究発表会・教育センター研修等の案内をポータルサイトや回覧を通じて行ったり、研究授業で活用する指導案の様式を検討し、先生方が作成した指導案を「鶴南指導案アーカイブ」として共有したりする。 | 3 | ○研修会等の案内については、担当者間の業務分担を明確にし、適切な案内と申し込みができた。 ○学習指導略案の様式を新たに検討し、内容を一部削減したり、学習計画表を活用したりすることで指導案作成の負担を削減することができた。研究授業で作成した指導案を活用し、多くの指導案をデータとして蓄積できた。 |

学校評価（生活部自己評価）

【総合評価】 4：十分達成している 3：おおむね達成している 2：どちらかという達成されていない 1：ほとんど達成されていない

| 重点目標 | 方策 | 総合評価 | 成果(○)と課題(●) |
|---|--|------|---|
| 基本的な生活習慣を確立させ、自立的な生活ができるようにする。 | 自立した生活を目指し、社会の決まりを守ろうとする意識を高める指導に努める。 | 3 | ○各学部の集会では、生徒会が中心となって、いじめについて考えたり、レクリエーション活動に取り組んだりし、互いを尊重し合いながら活動に取り組むことができた。 ○今年度から小学部5,6年生と中学部の全児童生徒が専門委員会に所属することになり、様々な活動に主体的に活動できる場面が増えた。 ●特別指導(高等部)年間 3件。生徒心得を見直したり、長期休業前に生徒や保護者に周知したりして再発防止に努めていく。高等部の夏服変更を検討中。 |
| 安全な学校生活を送ることができるよう、計画的、継続的に安全指導を行うとともに、不測の事態に備える。 | 災害に際して指示を守り、安全な行動及び態度がとれるようにするとともに、安全点検・対応マニュアルなどの充実を図り、安心して学校生活を送れるよう努める。 | 3 | ○搜索訓練、火災避難訓練、シェイクアウト訓練、地震避難訓練、不審者侵入時対応研修に取り組んだ。マニュアルの活用や改善につながった。 ○マニュアル等について、職員向けにポータルサイトで定期的にお知らせしている。先生方に防災について考えてもらういい機会になっている。 ●搜索事案年間 2件(小学部1件、高等部1件)。 ●非常用持出袋を児童生徒全員が準備しておくように、保護者への案内に工夫が必要。職員への周知や避難訓練時の職員の防災頭巾着用(購入)も周知していく。 |
| 校舎内外の美化に対する意識の高揚を図る。 | 日常的な掃除を徹底し、定期的には大掃除を実施し、美化に努める。 | 3 | ○各学部に掃除場所の割振りを行い、校舎内外の美化を保つことができた。 ○夏季休業中の職員清掃や各行事前の清掃活動を計画することで、安全できれいな環境を保つことができた。 ●夏季休業中が職員が集まりやすいが、猛暑のため作業には適さない。現在は体調等に合わせて無理のない範囲で作業してもらっているが、時期を変更することも検討していく。 |

学校評価（文化部自己評価）

【総合評価】 4：十分達成している 3：おおむね達成している 2：どちらかという達成されていない 1：ほとんど達成されていない

| 重点目標 | 方策 | 総合評価 | 成果(○)と課題(●) |
|---|---|----------|--|
| <p>①児童生徒の豊かな心情を育てるために、文化的行事の計画や立案、読書活動の推進を行う。</p> | <p>・文化的行事を計画立案・実践し、児童生徒を文化的行事に触れさせる。 ・児童生徒の実態に応じた図書の購入、季節に合った図書の紹介、読書集会での読み語りなどを行う。</p> | <p>3</p> | <p>○鶴南まつりについては、全学部で、生徒の教育的効果や保護者の感想、職員のアナケートから、次年度も今年度の流れて、舞台発表とバザーの両方を実施したいという意見が多かった。お店体験について、次年度も実施する予定。 ●2学期は多くの行事がある中で、準備、実施に向けて負担や、不安を感じる意見もあった。開催時期や方法に関しては、今後も検討していく必要がある。 ○高等部でアウトリーチコンサートを実施することができた。生徒職員共に好評で、小中学部にもぜひ体験してほしい演奏会だった。次年度も案内があり、時期が合えば希望を出したい。 ○通常の図書の購入・登録については、スムーズに進めることができた。今年度は、十八親和銀行から寄贈の案内があった。選定までの時間が短く、提出までが大変だったが、その分、児童生徒への図書を充実させることができた。また読書活動（読書週間）に向けて、おおむね準備・実施することができた。 ●読書活動（読書週間）については、期日の設定が難しいところもあるが、実施可能な時期を教務にも相談しながら、計画を立てて実施していきたい。</p> |
| <p>②学習活動の成果を総合的に生かした発表の場を設ける。</p> | <p>・児童生徒の作品を校内外に展示したり、ホームページに掲載したりして発表の場を設ける。</p> | <p>3</p> | <p>○年間を通して校内の掲示板については、担当の学部学年で児童生徒の作品展示を進め、HPへの掲載を行うことができた。 ○夏休み作品展、ココロモノとアート展、長崎市の障害者アート作品展など、それぞれの担当で、計画的に準備し、進めることができた。 ●鶴南まつりやお店体験について、HPへの掲載をすることができなかった。次年度、終了後は、速やかに掲載できるようにしたい。 ○各種案内などについては、前半は、期限切れのポスターなどがあり、貼り替えが遅くなってしまったが、後半は、期限を確認しながら掲示、案内することができた。</p> |

学校評価（保健体育 部自己評価）

【総合評価】 4：十分達成している 3：おおむね達成している 2：どちらかという達成されていない 1：ほとんど達成されていない

| 重点目標 | 方策 | 総合評価 | 成果(○)と課題(●) |
|--|--|------|--|
| <p>①児童生徒一人一人の実態に応じた運動を経験させ、体力の向上を図る。</p> | <p>・体育の授業や行事等を通して、運動する楽しさを感じるとともにと技能の向上が図れるように努める。 ・児童生徒の安全に配慮した教材教具の適切な使用に努める。</p> | 3 | <p>○中学部の水泳学習では、水に親しむことの楽しさを知ることができた。体育祭や運動会、R&W大会等を通して、体力や技能の向上を図ることができた。 ○体育館が雨漏りをすることがあったが、事務室が迅速に対応し、児童生徒の安全に配慮することができた。 ●学校評価の施設・設備、教育環境での数値の低下が見られた。保体部管轄の物品に関して、事務室と連携して修繕や新規購入等を検討していく。 ●小中学部の運動会に関して、より重点目標が達成できるような開催方法を検討していく。</p> |
| <p>②保健の授業や集会の活動を要として、健康の保持・増進を図る。</p> | <p>・歯磨き、うがい、手洗い、適度な運動等の習慣化を通して、健康や安全への関心を高めさせる。 ・保護者や関係機関との連携を深め、児童生徒の生涯にわたる健康の保持増進に努める。</p> | 3 | <p>○歯磨き後のフッ化物洗口を毎日実施しているが、歯垢除去にはブラッシングが必要なので、今後も口腔の健康を意識した指導の重要性を確認することができた。 ○小学部では特別活動の時間で、保健委員会の委員会活動が新設され、健康への関心が高まる取り組みを始めた。 ○より健康の意識が高まるよう、保護者への身体測定のお知らせの仕方を変更し、連携が深まるケースがあった。 ○より安全な方法で児童生徒が学習できるよう、おう吐物処理マニュアルの見直しを行い慎重に対応することができた。 ○保健室での一般薬の使用を見直した。 ●校内での頓服薬の使用について、保護者からの問い合わせが増えてきている。今後、手続きの検討を行っていく。 ●水泳学習時の安全面を高めるため、心配蘇生法研修会の時期の前倒しを検討していく。</p> |
| <p>③児童生徒の望ましい基本的生活習慣の形成と、好ましい人間関係の育成を図る。</p> | <p>・食べる大切さを知るとともに、食事のマナーを習得できるよう指導に努める。 ・児童生徒の実態に応じた栄養管理に努める。</p> | 3 | <p>○給食の献立や食育だよりを学校ホームページに掲載し、情報発信を増やした。 ○小学部では特別活動の時間で、給食委員会の委員会活動が新設された。児童・生徒が給食掲示物を作成したり、毎日給食時間に放送を行ったりした。</p> |

学校評価（進路指導部 自己評価）

【総合評価】 4：十分達成している 3：おおむね達成している 2：どちらかという達成されていない 1：ほとんど達成されていない

| 重点目標 | 方策 | 総合評価 | 成果(○)と課題(●) |
|--|--|------|--|
| <p>①児童生徒の社会的・職業的自立に向け、必要な基盤となる能力や態度を育てるために、本校のキャリア教育を推進する。</p> | <p>①キャリア教育を組織的に位置付け、学校として一貫性のある指導を実現させるため、「キャリア教育に関する全体計画」を推進する。</p> | 3 | <p>○学期ごとに評価、反省をすることで、切れ目のない指導を実現することができている。 ○キャリアパスポートの活用を通して、子どもたちと対話しながら、自分の行動について振り返らせたり、今後の行動について見通しをもたせたりすることにつながった。 ○中3生徒が12月までに高等部の作業学習や実習報告会等へ月1回参加し、高等部及び高等部卒業後の生活を具体的にイメージさせる中高一貫教育を推進することができた。</p> <p>●情緒面に課題がある児童生徒、不登校の児童生徒に対しては、計画的、継続的なキャリア教育の推進が難しい。</p> |
| <p>②児童生徒一人一人の願いや特性に応じた進路指導を行う。</p> | <p>②各部懇談や進路相談、ホームページ等を通して、卒業後の生活や進路に関する情報や資料の提供を行う。</p> | 3 | <p>○定期的に懇談を実施し、必要に応じて資料等を用いながら情報提供を行うことができた。 ○「進路の手引き」を各家庭に配付し、ホームページにも掲載した。卒業後の進路を具体的にイメージできる情報を提供することができた。 ○定期的にホームページを更新し、進路に関する情報提供ができた。 ○主に高等部保護者向けの内容ではあるが、進路説明会や年金説明会の案内を小中学部保護者にも行い、在学中や卒業後に必要な情報を提供することができた。</p> |
| | <p>③児童生徒及び保護者の願い等を把握し、適切な進路指導に努める。</p> | 3 | <p>○進路希望調査や個人懇談、学級担任とのやり取りを通して、児童生徒及び保護者の願いを把握し、願いに応じた情報提供及び進路指導を行うことができた。</p> <p>●10月現場実習で、卒業後の就職や利用について前向きな回答を得られなかったケースや事業所側から実習を依頼されたケース等があり、5名の生徒が特別実習を実施した。 ●長崎市南部地域には、障害福祉サービスを提供する事業所が少なく、また、南部地域まで送迎をしてくれる事業所が少ないため、実習先や進路先の選定が難しい。</p> |
| | <p>④関係諸機関との連携を密にし、事業所や企業訪問を積極的に行い、進路の新規開拓や卒業後の追指導に努める。</p> | 3 | <p>○企業は8社、福祉サービス事業所は3事業所を新規に開拓することができた。 ○中小企業家同友会会員企業の見学研修を通して、各企業の特徴や業務内容等を知ること、連携を深めることにつながった。今後の実習先の選定につなげていきたい。 ○主に長崎市内の企業や福祉サービスの事業所を訪問し、多くのつながりができた。また、訪問の際に、卒業生の様子を確認し、必要に応じて追指導を行うことができた。</p> |

学校評価(教育支援部自己評価)

【総合評価】 4：十分達成している 3：おおむね達成している 2：どちらかという達成されていない 1：ほとんど達成されていない

| 重点目標 | 方策 | 総合評価 | 成果(○)と課題(●) |
|---|--|----------|--|
| <p>校内の支援体制を整え、指導・支援の充実を図る。</p> | <p>児童生徒や家庭等の課題解決に向けて、ケース会議や支援会議、相談等の企画・調整を行い、校内支援の充実に努める。</p> | <p>3</p> | <p>【ケース会議・支援会議】 ○ケース会や支援会議を開く際には、事前に話し合いの目的や流れなどを参加メンバーと確認したり、担任に必要な情報を事前にまとめてもらったりすることで、円滑な会議を実施することができた。 ○本人だけでなく、家庭を含めた支援が必要なケースが多くあり、ケース会や支援会議にSSWにも入っていただきながら、役割分担を決めるなどすることで、関係機関との連携などを必要に応じて行うことができた。 ●ケース会議・支援会議の対象となる児童生徒に限られてきている。その他にも、チームで対応したほうがより良いケースが隠れているかもしれないので、どのようにすればこの会議が広がりを見せるかチェックリストの活用も含めて、検討していきたい。</p> |
| <p>本校教育の理解啓発活動や、地域の幼稚園・保育園・学校及び保護者等からの教育相談を充実させ、開かれた学校作りや特別支援教育のセンター的役割を推進する。</p> | <p>学校見学会や体験入学においては、ホームページを利用して、広く参加を呼びかけるとともに、本校の教育活動についての情報提供や理解啓発に努める。</p> | <p>3</p> | <p>【一日体験入学】 ○昨年度8名の参加だったが、今年度は21名の参加だった。 ○事前に関係職員(部主事、教務主任、進路指導部主任など)で話し合いを行い、どのようにすれば学校のことがより伝わるかについて検討した。 ○当日は、こども主体の説明に変更したり、生徒自身が作業学習の様子を紹介したりお茶出しをしたりしたことで、アンケートでは満足度の高い結果となった。 ●名称が分かりにくいいため、来年度からは「第2回学校見学会」などに変更していきたい。</p> |

学校評価（ 情報教育部自己評価）

【総合評価】 4：十分達成している 3：おおむね達成している 2：どちらかという達成されていない 1：ほとんど達成されていない

| 重点目標 | 方策 | 総合評価 | 成果(○)と課題(●) |
|---|--|------|--|
| ICT機器や視聴覚機器を整備・管理し、教育活動や学校業務への有効な活用を図る。 | <ul style="list-style-type: none"> ・ICT機器や視聴覚機器の管理の徹底を図る。 ・校内ネットワークの有効な活用の仕方を探り、学校業務の円滑化を図る。 ・校内外の研修を通して、職員のICTを活用した指導力や情報処理機器及び視聴覚機器の操作技術の向上を図る。 | 3 | <ul style="list-style-type: none"> ○機器の管理については、先生方の貸し出し簿の記入など徹底することができた。 ○一人一台の指導者用端末を授業する頻度が増えている。 ○1月に情報モラル、GIGAワークブックながさきの研修会を実施できた。 ●生徒用端末の不足分が1台となった。 ●タブレット端末の故障が5台あった。 |
| 情報セキュリティに関する管理要綱等の整備・管理を行い、職員へ周知徹底をする。 | <ul style="list-style-type: none"> ・ICT機器や視聴覚機器及び情報セキュリティに関する管理要綱等の整備・充実に努め、教育活動や学校業務に有効に活用できるようにする。 | 3 | <ul style="list-style-type: none"> ○長崎県立学校情報セキュリティを意識して業務に当たることができている。 ○保護者への情報モラルの文書（警察庁、厚労省等作成）を配付し、学校と保護者が共通の意識を持てるようにできた。 ●著作権についての意識を高めるように今後も資料の提供やお知らせを行っていく。 |
| メディアを活用した広報活動に努め、本校の教育活動の理解啓発を図る。 | <ul style="list-style-type: none"> ・学校ホームページの内容の充実に努め、より効果的な活用の仕方を探る。 ・本校における教育活動の記録を収集・整理し、広報活動に利用できるようにする。 | 3 | <ul style="list-style-type: none"> ○ホームページをそれぞれの分掌や係で申請することができている。 ○ホームページへのアップロードが増え、本校の様子を広く知っていただけるようになっていく。(アクセス数 2023年20254件、2024年25387件) |

学校評価(自立活動部自己評価)

【総合評価】 4：十分達成している 3：おおむね達成している 2：どちらかという達成されていない 1：ほとんど達成されていない

| 重点目標 | 方策 | 総合評価 | 成果(○)と課題(●) |
|--|--|------|--|
| ①本校における自立活動の充実に努める。 | <ul style="list-style-type: none"> ・自立活動情報整理シート①②の提出日を設定し、自立活動部、教務、部主事で内容を確認し、必要に応じて助言するなどの体制を整え、個別の指導計画作成につなげる。 ・個別の指導計画目標設定検討会を設定し、小中高等部で事例を決めて、話し合いを行う。 | 4 | <ul style="list-style-type: none"> ○情報整理シートの提出日を設定したことで、実態把握、課題関連図、仮説、目標について複数の視点で内容を確認し、妥当性を高めることができた。 ○目標設定検討会を行い、学部内で事例を決めて、目標や具体的な指導内容について検討ができた。 ●自立活動の六つの区分から総合的に実態把握を行い、指導課題を抽出していくこと。 |
| ②児童生徒の障害の特性等に 応じた自立活動の指導内容・ 方法等について、実践を深めるとともに、自立活動に関する専門性の向上に努める。 | <ul style="list-style-type: none"> ・自立活動の個別の指導計画作成に関する研修会、外部専門家の指導助言を活用した授業改善、外部専門家夏季研修会、夏季自立活動研修会(校内)などを通して、自立活動の指導に関する専門性を向上させる。 | 4 | <ul style="list-style-type: none"> ○夏季講話研修会のアンケートからは、「応用行動分析の理解が深まった」、「適切な行動を決めることの難しさを実感した」など好意的な意見が多かった。 ○夏季校内研修会は、教育センターの「研修パッケージ」を活用した。小中高等部で活発な意見が交わされた。 ●外部専門家活用事業を、自立活動の時間の指導により生かしていくために、自立活動部で各学部の事例を担当と一緒に検討し、進めていくこと。 ●初任研、経年研の研究授業で自立活動の授業に取り組んだ後の、授業省察の進め方を整えていくこと。 |